

事業所における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 4 年12 月 26 日

事業所名 ロングサポートナチュール

職員数22名 回収数 22 名 割合 100 %

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	21			活動場面に応じた使い方の工夫をしていきたい。
	②	職員の配置数は適切である	22		・フリーの職員がいる	コロナの影響を考え、継続的に今後の体制を見直していく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	22		・個別の棚、ラベルなどでわかりやすくしている ・物の定位置を決めている	適切な、環境整備に努めていく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	22		・喚起、除湿、加湿、空気清浄等を行っている	コロナ対策と併せ、衛生管理、感染対策を万全に尽くしていきたい。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	18	4		業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）について、職員の参画ができていないため、今後の課題として、取り組んでいきたい。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	19	2		自己評価を通して改善対策を実施しているが、今後は事業所としての評価表作成についても検討していきたい。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	17	3	・まだわからない	ホームページにて公表している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	4		現在はまだ実施していないが、今後（2022年）実施する予定。

適切な支援の	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	22			コロナの影響により、研修が難しくなっているが、一部でオンライン研修の参加を実施している。今後はオンライン研修の活用を広げ、小グループでの事業所内研修を開催できるように工夫していく。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	20			個別支援計画のことを周知していく。現在個別支援計画書は個別ファイルに添付し、スタッフが常に確認できるようにしているが、周知でしていく。また、職種間の情報交換ができるように、職種ごとの記録もさらに活用できるよう工夫していく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	15	3		アセスメントツールの標準化をしていないので、今後の課題とする。支援計画はできている。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	19			「発達支援」については、お子さんの能力・生活経験・QOLの観点から評価し、「家族支援」「地域支援」については、社会資源の活用・家族関係・生活環境の整備の観点から評価、その他医療的ケアの観点から評価し、支援内容を設定している。（個別支援計画書参照）
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	21			全職員が個別支援計画を理解し、支援に活かせるよう、会議や個別に対応していく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	19	2		活動プログラムは児童指導員等を中心に立案し、実施している。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	19	1		引き続き、活動プログラムに様々な工夫をして、子どもたちの発達支援に活かしていきたい。

提供 関	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	19			個別支援計画書を周知する。計画書にも記載しているとおり、個別活動と集団活動の組み合わせを実施している。日々の活動プログラムにも個別活動と集団活動の場面設定をしているが、職員全員が周知できるよう工夫していく。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	19	2		朝の申し送りはできているが、すべての職員が出席できる時間ではないため、その日ごとの役割分担確認については、個別に対応している。また、ボードの活用にて、周知内容を記載しているが、全職員に周知できる工夫をしていく必要がある。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14	6	・毎日とは出来ていない	常勤職員間では確認ができている。全職員と情報共有できるようにしていく必要がある。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	21			サービス提供書や職種ごとの記録用紙に記録しているが、それをもとに振り返りや職種間での情報共有が不十分であるため、記録をさらに活用して、支援の検証や改善につなげていく。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	17	2		6か月を目安に実施している。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	18	1		現在は児童発達支援管理責任者が主となっている。会議の時間帯によって、活動との調整が困難であるが、必要に応じて、他職種の参画できるようにしていく。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	19	2		必要に応じて、関係者会議の開催や電話連絡を通して、具体的な連携を図っている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	19	2	・数名のお子さんしか出来ていない	必要に応じて、関係者会議の開催や電話連絡を通して、具体的な連携を図っている。

関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	18	3		必要に応じて、主治医や医療関係機関と連絡をとるほか、嘱託医と定期的に相談している。
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	20	1		保育園等への移行する子どもについては、書面や訪問によって情報共有や相互理解を図っている。
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	19	2		必要に応じて、入学前に情報共有等を行っているが、今後は共通した書面等の報告ができるよう、体制を整えていきたい。
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	6		関係者会議等とおして、連携や助言を受ける機会がある。今後とも連携を図っていきたい。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	9	11	・今は感染症対策で行えていない ・コロナになってからの交流が難しくなっている	現在は、コロナの影響により、交流の機会が得にくいですが、オンライン等の活用を検討していきたい。
	㉕	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	15	2	・コロナになってから難しくなっている	市の自立支援協議会に参加している。
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	20			共通理解を図るために、面談等を実施していく。
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	12	7		現在は個別に助言等を行っているが、参観日等を設け、より具体的に家族支援につなげていきたい。
	㉘	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	17	1		契約時に説明している。
	㉙	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	20			面談時等に個別支援計画書を提示し、説明したうえで同意を得ている。

保護者への説明責任等	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	18	2		必要に応じて、その都度対応しているが、定期的な聞き取り等、こちらからの働きかけも継続していきたい。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	15	6	コロナ禍なのでなかなか難しいが、工夫をしながら親子遠足等を企画している	現在はコロナの影響により、保護者会が開催できていないが、開催方法を工夫して、保護者間の連携につなげていきたい。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	19	1		体制としての整備が不十分と思われる。 常勤を中心に適切な対応ができる体制を整えていく。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	7		事業所通信の発行を予定しています。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	21			個人情報の取り扱いには十分気をつけているが、引き続き、徹底に心掛けていく。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	18	2		全職員に向け、研修をしていくことを検討。 また、日々の対応の中で、職員一人一人が言葉遣いや聞き取りの姿勢に配慮できるように指導していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	9		コロナの影響により、地域住民を招待して等の行事開催はできていない。地域に開かれた事業運営につながる策を講じていきたい。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	19	2		マニュアルの策定はできているが、全職員の周知が不十分である。また、訓練についても今年度はまだ実施できていないので、年度内に実施していく。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	19	2		マニュアルの策定はできているが、全職員の周知が不十分である。また、訓練についても今年度はまだ実施できていないので、年度内に実施していく。
		事前に 昭華や予防接種 7人から				契約時に保護者の方から聞き取りを通して状況確認している。必要に応じて、母子手帳

④③	事前に、放棄や不応答性、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	21			お薬手帳の提示ももとめ、情報把握に努めている。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17	2	・わからない ・該当する児がいない	医師の指示書および保護者の方から情報を得て、対応している。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	17	3		会議等で公表している。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	20			事業所内で研修を実施し、適切な対応に心掛けている。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	18	1		個別支援計画書にも記載したうえ、保護者の方には口頭でもお伝えしている。 子どもに対しては十分な声かけを心掛けるよう、職員の対応方法について周知している。 今後とも見直しを含め、安全面と虐待防止の観点から対策をすすめていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。